



## 第3回世界水フォーラム土砂委員会中南米地域会議報告 (パナマ)

第3回世界水フォーラム 土砂委員会事務局\*

去る1月にパナマに於いて第3回世界水フォーラム「土砂委員会」中南米地域会議が開催されました。その概要を報告します。

### 1. 概要

日時：平成14年1月21日（月）～23日（水）

場所：パナマ市内 マリオットホテル

開催者：第3回世界水フォーラム土砂委員会及び  
CEPREDENAC (Coordination Center for Natural Disasters Prevention in Central America) の共催

参加国：コスタリカ・エルサルバドル・グアテマラ・ホンデュラス・ニカラグア・パナマ（以上はCEPREDENAC加盟国）ドミニカ（準加盟国）・メキシコ・コロンビア・ヴェネズエラ・日本 合計11カ国

参加者：技術的発表及び議論ができ、且つ提言決定に権限を持つ人を各国から1名  
CEPREDENACにより選定

使用言語：スペイン語(日本側は同時通訳にて対応)

参加者数約50人

#### 【パナマ側参加者】

パナマ大学 地質研究所 Mr. Eric A. Chichaco  
パナマ工科大学 土木工学部長 Prof. Obdulia Guizado  
土木事業省 長官 Mr. Jorge Morales Q. 及び 省員 約10名  
パナマ市 設計部 技師 Mr. Marissel Hernandez  
サンミゲリト市 技術部 技師 Mr. Joan Saabedra  
パナマ運河庁 技術課 技師 Mr. Manuel Barrelier  
SINAPROC 技術部長 Mr. Eric Canto 及び 技術顧問 Mr. Eberto Anguizola  
ETESA 水政局 技師 Mr. Juan Jaramillo T  
CEPREDENAC 事務局長 Mr. Jorge Ayalaほか 約10名

#### 【日本側参加者】

駐パナマ日本大使館 松津 光威大使・板垣 克一等書記官  
在パナマJICA所長 三澤 吉孝氏  
中村 ヒロシ氏 (JICAプロジェクト)

#### 土砂委員会委員

大井 英臣氏 (JICA国際協力専門員)  
中村 浩之氏 (東京農工大学大学院 教授)  
杉浦 信男氏 (国土交通省 河川局砂防部 火山・土石流対策官)  
土砂委員会事務局  
(財)砂防・地すべり技術センター  
企画部 部長 反町雄二  
国際課長代理 向井啓司  
企画部 三浦 知子  
砂防部 技師 吉田真也  
砂防技術研究所 主任研究員 安田勇次

### 2. 会議

1月21日（月）

・開会式典 10：00～10：30

来賓挨拶 松津光威大使

Mr. Jorge Morales Q. 長官

開会挨拶 杉浦 信男氏 火山・土石流対策官

Mr. Jorge Ayala 事務局長

・中南米各国発表 10：40～16：30

司会 MSc. Eduardo Camacho (CEPREDENAC)

パナマ 土木事業省 整備局長

Mr. Federico Bequer

コロンビア INGEOMINAS プロジェクトリーダー

Mr. Fernand Ramirez

コスタリカ CNE 防災部長 Mr. Julio Madrigal

エルサルバドル 環境省 リスク削減調整官

Mr. Carlos Huevo

ホンジュラス COPECO 技術チーム

Mr. Mario Aguilera

メキシコ CENAPREDO 地質技術顧問

Mr. Manuel J. Mendoza

ニカラグア INETER 地質学者

Mr. Sammy Gonzales

ドミニカ共和国 農業担当外交官

\* (財)砂防・地すべり技術センター 企画部国際課 三浦知子



**Mr. Ceaser Lidio Rodriguez**

ベネズエラ 国立地質研究所 研究グループ

**Ms. Elda Perdomo**

・レセプションパーティー 18:00~20:00

1月22日(火)

発表 10:00~11:30

日本 杉浦 信男氏 火山・土石流対策官  
土砂委員会から 中村 浩之氏 教授

1月22日(火) 11:30~16:30

・パネルディスカッション及び提言作成

1月23日(水) 9:00~14:00

・提言作成

議長: **Dr. David A. Novelo Casanova**(CEPREDENAC)

副議長: 大井英臣 国際協力専門員

・記者発表

・修了証書授与

2003年3月に京都で開催される第3回世界水フォーラムへと続く今回の会議では、中南米地域の特性、特に火山・地震・ハリケーン常襲地域における土砂災害対策についての発表及び活発な議論が行われた。

1日目の発表ではいずれもパワーポイントを用いながら、自国の災害状況を詳しく説明していた。ハザードマップや危険区域図等を持ち出しての発表であったが、危険地帯の住民を避難、移転させるには住民移動の際にかかる多額の補償金、政治、コミュニティの問題等で難しいというのは中南米諸国の共通した問題であると感じた。発表時間は各30分であったが、皆熱の入った発表の為大幅に予定時間をオーバーし、当初は1日目に発表する予定であった国土交通省の杉浦対策官の発表が2日目に持ち越されるというスケジュールに組み直された。

2日目の杉浦対策官の発表では日本の土砂災害の特徴及び土砂災害防止法の説明があり、質疑の際には日本からの支援を期待している声が多く聞かれた。また、水フォーラムに関しての説明があった際にも参加者の関心の高さを感じ取れた。土砂委員会委員の中村浩之先生からは「国際SABOネットワーク(仮称)」の構築による情報共有が提案された(1. 土砂災害による防災情報の共有 2. 防災技術の開発 3. 国際的なシンポジウムの開催)。その後のパネルディスカッション及び提言作成では1日目の発

表を踏まえて白熱した議論が行われたのだが、1998年11月に中南米諸国を襲ったハリケーン・ミッチでは自国のみでは対応しきれない部分があったことから各国とも情報の共有の必要性を強く感じているようであった。

ラテン系の民族の気質であると思うのだが、皆概して話し好きな人が多い。昼食時間では各テーブルから和やかな話声が聞こえてきて楽しく意見交換をしているようであった。提言作成終了後、会場では各自が持ち寄った自国のハザードマップや資料を基に会場のあちこちでフリーディスカッションをしている場面が見られ、有意義に情報交換をしている感じが良く伝わってきた。

3日目は提言の最終確認および記者発表であったが、提言が予定時間内にまとまらず記者発表後に再度確認作業に至った。記者発表ではテレビ局及び新聞各社あわせて約10社の参加があったのだが、提言が確定して無かったこともあり会議自体の質問よりも概要に関しての質問が多かった様に見受けられた。

### 3. 終わりに

今回このシンポジウムを土砂委員会と共同開催したCEPREDENACはパナマに本部をおく中央アメリカにおける自然災害防止調整センターであるが、職員のほかに加盟国の大学教授及び民間の専門家等の代表により非常にうまく組織されており、広範囲での連携の強さを感じさせるものがあった。今回の提言をもとに各国が連携して災害軽減に向かって行けば、2003年に京都で開催される第3回世界水フォーラム本番ではもっと活発な議論が出され、更に具体的な行動案が導き出されるだろうと感じた。

